

# 光葉同窓会メールマガジン

<2024年6月号>



2024年6月3日配信

初夏というには暑い日が続いています。沖縄地方と奄美地方が梅雨入りしたと発表されました。これからは各地から梅雨入りの報告が届くでしょう。学園内では日ごとに緑が濃さを増しています。

全国支部長会・総会が開催されました。同窓生が各地から参集して旧交を深め、学園の発展する様子をうかがい、楽しいひと時を過ごしました。『光葉の年輪 新体制 50周年記念誌』が刊行され、ページをめくるごとに文字通り年輪を重ねて来た様子が読み取れます。6月は幹事会開催、各地区の支部会が予定されています。学生アンバサダー派遣が軌道にのってきました。年代や地域を超えて、縦、横、斜めの関係が今後もさらに深まっていくことでしょう。（常任委員 山口澄子）

## ◇全国支部長会を開催しました 5月18日(土) 第1部 13:30~15:30 第2部 16:30~18:30

昭和女子大学学園本部館中会議室に51名の支部長が参加しました。

第1部の支部長会は、井原奉明副学長にご挨拶をいただき、松田忍アドミッション部長、伊藤純キャリア支援部長から大学入試状況、就職動向の説明を受けました。新支部長の紹介、2人の支部長から支部会の運営と開催の工夫、学生アンバサダー派遣の感想を聞き、グループごとの話し合いを行いました。



第2部の懇親会では、坂東眞理子総長・同窓会特別顧問、山崎日出男理事長にご出席いただき、キャロットタワー26階のレストランで、親睦を深めました。

## ◇第51回光葉同窓会総会を開催しました 5月19日(日) 11:00~14:15

昭和女子大学学園本部館大会議室に来賓を含み、157名が参加しました。

第1部の総会では、金子朝子会長の挨拶後に、瑞宝中綬章を受章されたお祝いの花束を贈呈しました。坂東眞理子総長・同窓会特別顧問からは、学園の現況や取り組みなど母校の様子をお聞きしました。議事長を選出し議事を進行、活動報告及び決算報告、会計監査の報告、活動計画案および予算案が全て承認されました。支部設立50年の3支部を表彰、リニューアルのホームページと光葉の年輪が刊行されたことを報告しました。



第2部の懇親会では、山崎日出男理事長、金尾朗学長・



同窓会顧問、恩師代表として江口雄介先生にご挨拶いただき、昼食と歓談を楽しみました。お楽しみ抽選会は会場に歓声や笑顔の輪が広がりました。最後に「光葉によせて」を斉唱して閉会しました。

## ◇支部会開催

- ・6月1日(土) 東京都北東7区支部
- ・6月8日(土) 沖縄県支部／世田谷支部
- ・6月9日(日) 群馬県支部／秋田県支部／千葉県支部
- ・6月16日(日) 栃木県支部／岩手支部
- ・6月22日(土) 大分県支部
- ・6月29日(土) 東京都東南7区支部
- ・6月30日(日) 宮城県支部

◇2024年度幹事会のご案内 6月15日(土) 11:00~12:30 学園本部館3階大会議室

学年幹事の皆様に、はがきでお知らせしています。ぜひご出席ください。

◇小林美佐子先生を偲ぶ会 (昭和女子大学・附属高等学校光葉会と共催)

日時 6月27日(木) 14:00 開式 献花 15:00~17:00

会場 昭和女子大学学園本部館3階大会議室 中会議室に思い出の品展示、懇談コーナーを設置  
当日は、供花代として受付で1,000円をお納めください。また、平服でお越しください。

## 広げよう光の葉

本多 実和子さん

1993年 生活美学科卒

### 好きな世界にこだわり、たどりついた学芸員

福井県坂井市は、国の天然記念物および名勝の東尋坊をはじめ、重要文化財の天守をもつ丸岡城を擁し、白山山系の九頭竜川につながれた自然と歴史が息づく地です。今まさに麦秋、坂井平野は黄金色の麦が風になびき、水田は夕日に映えて美しい風景を織りなします。先日は県指定無形民俗文化財の三国祭が開催され、「帯の幅ほど」とよばれた三国湊の町を山車が巡行しました。

故郷である坂井市の素晴らしさを、坂井市龍翔博物館の学芸員として私はどう伝えていこうか。

私は生活文化史コースで考古学者の桜井清彦先生に学び、日野市教育委員会の発掘調査に参加する一方、建築コースの友達から模型製作に誘われたことがきっかけで出入りしたプロダクトデザイン会社でも手伝いを続けました。プレゼン、撮影、様々なものがデザインされる過程を見ました。

学芸員資格を得て卒業後、私は好きな世界にこだわり、福井県教育庁埋蔵文化財調査センターで働きました。奈良文化財研究所や国立歴史民俗博物館の先生方からご助言を賜りながら報告書を書かせていただいたことに感謝しています。

当時、一乗谷朝倉氏遺跡資料館の次長が偶然にも昭和女子大学出身で、よく気にかけてくださいました。定年後は福井県支部長になられ、支部会へ私をお誘いくださいました。それがご縁で、現在は私が支部長をしております。そして、武家屋敷復元に関わり、福井県立歴史博物館の館長もされた平井聖先生(昭和女子大学第7代名誉学長)が福井県支部会にいつもご参加くださいました。

埋文センターは出産を機に辞めましたが、調査後の現場に完成した県立音楽堂のレセプションニストとなり接客力を磨き、福井市立郷土歴史博物館にて受付業務全般を経験しました。その後、坂井市会計年度任用で事務員となり、坂井市龍翔博物館(外観は、明治時代の龍翔小学校がモデル)で学芸に関わる仕事やチラシ・ポスターのデザイン、財務会計も行いました。ここで詩人・仏文学者で翻訳家の宗左近先生の足跡を知ります。美学の講義で、谷川俊太郎の詩を愛で「美とはなんぞや」を問っていた宗先生は、ジャンクアートで名を馳せた三国町在住の美術家小野忠弘と親交があり、この地を訪れていたのです。

昨年、坂井市龍翔博物館がリニューアルオープンしたと同時に、私は学芸員の職名をいただきました。悩む時期もありましたが、できることを精一杯やっと思い直したところでした。今年初めてミニ企画展を担当させていただき、次は夏の企画展です。楽しいワークショップを行い、坂井市の魅力をいっぱいお伝えできる学芸員として精進してまいります。【End】

